

毎年、江川せせらぎに関するシンポジウムを年一回開催してきました。中原区役所道路公園センター及び高津区役所道路公園センターから参加を頂き、藻対策や樹木そして近隣町会の諸問題について説明経過報告、意見交換をして来ました。

一定の成果や諸問題等を検討しましたが、今年はネット幹事と会員の皆様で身近な所の貯留菅施設の見学と勉強会を企画しました。

参加されたネット会員の大庭裕子さんにレポートを頂きましたので報告します。

大庭裕子

六月二十二日

(日)、江川雨

水貯留管の見学

会がありました。

中々、埋設され

た貯留管を見る

機会はありません。

さすが！せ

せらぎネットな

らではの企画で

す。「これは一

度見ておかなければ

と参加を

しました。場所

は、江川せせら

ぎの最終地点・

渋川合流地点に

ある川崎市江川

せせらぎポンプ

場施設です。ここから、ゴンドラ

に乗って地下9階約30mまでゆっ

くりと降りていきます。薄暗い中

に、直径8.5mの巨大なシール

ドトンネル・貯留管が現れたとき

は、ちょっとした感動を覚えまし

た。

水を抜いたあとの底、階段の手

すりや周辺の壁にはへドロが付着

職員の方がトンネルの入り口部分

を指さして「よくわからない白い

植物があそこに生息しているんで

貯留管 見学会
 さすが、せせらぎネットならではの企画



当時の地下工事現場
 総工費が280億円だそうです。

すよ」と教えてくれ、どこか不思議な世界に迷い込んでいる気分でした。見学会に参加して、こうした雨水貯留管の整備がされたことよって浸水被害が抑えられ、市民の暮らしを守っているということが、実感ができて良かったです。

■今後の活動に参考

■になった見学会

また一方で、最近の一時間に8ミリを超えるような局地的集中豪雨は、まだ未知の領域で対応が可能なかわからないという、「ドキッ」とするような話しが職員からあつて、あらためて私たちがどんな地域に住んでいるのかよく知る必要があると思えました。特に子どもたちに、江川せせらぎの下には巨大なトンネルがあることを、実際に目で見て感じてもらうって、江川せせらぎへの親しみを一層深めていってもらいたいなと思えました。



巨大貯留管前で（江川雨水貯留管内部）
 参加者（写真左より松本代表、田辺（達）さん、大庭さん

森とせせらぎ祭り
 実行委員会より

第十回森とせせらぎ祭り実行委員会が招集され既に二回行われました。

今年は、節目の十回にあたり記念行事的な企画も準備に入っています。各部会も夏場に入ると本気モードに切り替わり連携を取りながら進めています。

八月の第三回実行委員会では広報部のポスター確認や協賛関係の挨拶回り、又企画部の出演団体交渉と大事な時期を迎えています。又、収支中間報告書と睨み合わせ経費削減、無駄を省き効率的な会計運営に努めています。



ひとみ座の人形劇を実行委員会に披露された事もありました。

役員一同全力で頑張っていますのでご期待ください。

遠藤代表委員

☆☆☆灯ろう流し☆☆☆

主催：森とせせらぎネット

子どもたちの健やかな成長を願い毎年、江川せせらぎ遊歩道東屋付近で故郷づくりの一役となる'灯ろう流し'を行っています。

先祖の霊を供養して人々の平和と安全、また未来へ願を込めて真夏の夕べを過ごして頂きたくご案内をいたします。好評のたらい舟も役員一同楽しんで頂ける様、準備を進めています。

是非、皆様お誘いの上、お越しく下さい。詳細は、左記のポスターでまたは、各掲示板で！

森とせせらぎネットによる
 江川せせらぎの真夏の夕べ

灯ろう流し

祈りを込めて 地域の安心 地球の平和

ご先祖の霊と人々の平和と安全、そして子ども達の故郷づくり東屋での式典で、ひとみ座による「三番皮」お楽しみいただけます。

祈りと思いを込めて灯ろう流し

ひとみ座/三番皮

日時 2016年 8月21日(日) 18時～20時
 場所 せせらぎ遊歩道の東屋周辺
 灯ろうキット販売 3000円(一式セット)
 キット事前販売日時と場所 東屋にて 8月7日(日)、14日(日)、15:00～17:30 20日(日)の3回です。
 電話での予約.....竹村トシ子(090-4007-9106) 田辺勝義(766-0650) 松本文雄(766-4545) 遠藤正久(788-3057)

小雨決行(荒天中止)
 ※当日は、同場所にて好評のたらい舟を浮かべています。お子様又、親子様とも一緒に乗船できます。お楽しみください。尚、時間費は、13:00～15:10です。お待ちしております。
 森とせせらぎネット 行事部長 田辺勝義
 実行委員 竹村トシ子

森とせせらぎ祭り
 関連団体のイベント紹介



▼せせらぎネットの行事

八月二十一日(日) 灯ろう流し
 時間・十八時より二十時 場所・東屋付近にて
 灯ろうキット販売・三〇〇円

▼ひとみ座

「ズツコケ時間漂流記」
 主催：日本児童・青少年演劇劇団
 協同組合
 日時：八月三日(水) 十四時開演
 ※現在演満席の為、キャンセル待ち受付中
 ひとみ座(tel. 044-777-2225)へお申し込みください

▼神庭・里山を楽しむ会

八月七日(日) ソーメン流し
 十月二日(日) 竹細工
 詳細は、神庭掲示板にてご確認下さい。

▼井田山・市民健康の森を育てる会

八月は夏季の為、活動休止です。

▼井田囃子保存会

参加者募集中 参加無料
 稽古日毎週金曜日六時半～八時半 井田神社
 大人の方も歓迎 問合せ 七六六〇一三三五まで

▼中原区役所

NECレッドロケッツバレーボールふれあい教室
 九月十七日(土) 十時～十一時三〇分
 川崎とどろきアリーナ

▼高津区役所

第三七回桶故郷祭り
 八月七日(日) 九時三〇分～一七時一五分
 川崎市民プラザ

ネット会員を訪ねて

人の出会や趣味の出会い、そこには思いがけなく熱く夢中にさせる事があります。
今回、横浜の樋口弘一郎さん（七十七歳）に銅版レリーフの趣味との出会いについて取材し語って頂きました。

広報部担当



銅版の世界
トラをモチーフ

敗が今の作品を生み出したと負しております。失敗は成功の元で独自の手法を学び取ったのです。僕の経験で言えることは、銅版レリーフは経験でなく作品の完成枚数の度合いであると言ふことです。今こそカルチャースクールがあり、またパソコンでも紹介されており容易に楽しむ事が出来ます。」

▲教室を始めるきっかけはどのような事でしたか

「始めて二十二年頃、或る時、友人から銅版レリーフを教えるて欲しいと言われ三人からのスタートでした。カルチャースクールとは違い基本的な手法や理論を省き、手順書は作ってあります。が、教室の特徴は、即実践型で途中、手が止まった時失敗しそうな時に説明と作品で修復し、基本を学ぶ方法を取っております。」

▲銅版教室を主宰する壁には所狭しと作品が飾られ見事でした。温厚で気さくで信頼がありますと（生徒さんより）評価「技術をオープンにして早く銅版を習得してもらおう事を第一に願っています。」今日も熱心に指導をされてました。

三十九年間の独自の手法で

「当時は、まだ銅版レリーフの教室はおろか銅版を手掛ける人もおらず全て手探りで独自発想で開発し、紆余曲折での事でした。何度かの失敗を繰り返してその失



処女作品 (当時の思いでが甦ります。)

▲これから始めようと思つていらっしゃる方に又、生徒さんに一言お願いします。

やはり、やる気と根性です。作品の完成は、自分が満足したら終わりであくまで完成は自分で決める様、努めてください。私も銅版レリーフは、奥が深くボケ防止と思つて今も挑戦をしています。共に頑張りましょう。

▲今日は、貴重な体験話しや指導方法等伺いました。数々の作品を改めて拝見し、取材の私も興味を持ちました。

最後に、樋口様の健康と教室の発展を祈りまして終わりたいと思います。有難うございました。

遠藤記

せせらぎ物語 第6話

江川せせらぎの水と緑の公園化に関する請願が大きな原動力に!

田辺勝義

田辺「江川の会」の運動は、川崎市の計画を尊重し協力しながら、積極的に提案をして行くという方向でした。提案の仕方の一つとして、請願を提出するかどうかという問題がありました。「市がやってくれるんだから」という意見もありましたが、議論の上で提出することになりました。

市の担当者の大川昌俊さんは住民の声をよく聞く一方、ご自身も経験と知識を生かそうとし、小松川・境川緑道にも見学に行っています。雨水貯留管の計画の説明はもちろん、市内の親水公園（幸区大師堀、登戸公園）見学も私達と一緒にしていたからです。「請願」は邪魔？という気持ちもあつたのです。

「江川（せせらぎ）の水と緑の公園化に関する請願」の概要は、江川親水緑道が「地域住民の誇りとなり、川崎市の財産となるよう」、1、市職員の知恵が部局の枠を超えて集められる組織を作ること。2、小松川境川などの事例研究をして計画に組み入れること。3、地域住民の意見を計画に反映させること、でした。「請願」は、1992年4月に提出され、全会派の議員が紹介議員になつてもらいました。そして、市議会に審議促進の要請などをする中で、1993年9月に全会一致で趣旨採択されました。

後から考えてみると、90年代半ばからの「財政難」で計画が3年も遅れたことから、やはり議会請願の議決が会や住民の要望実現の保障となつたし、緑道を何とか実現したいという市担当者の努力を支えることにもなつたと言えるのです。



江川せせらぎ遊歩道の川幅が一番狭い所は、何メートルでしょうか？

0.9メートル（下新城3-9付近）

シベリア鉄道とバイカル湖の旅

完結編

松本浩次郎

サハリン（樺太）生まれでロシア国籍を持つ李さん一家には、ロシア国籍、アメリカ国籍、韓国国籍ありの多国籍家族のようだ。国境と言うものに、権力者・政府や「母国を愛する国民」は拘るが、自分の生活を自分の考えで行動する国際派には、国境はどうでもよいという環境になりつつあるのだろうか？

日本人墓地

墓標をしげしげと見入る

⑦帰国の朝、バスでハバロフスク空港へむかったが、十五分ほどで脇道にそれた。「シベリア抑留者の日本人墓地ですよ」と奥山さんが教えてくれた。門を入った入り口の場所に十数本の柱があつた。四角い石碑の正面にお名前が刻まれ、脇面に生年月日と死没年月日が記されていた。生年月日からすると私に近い昭和一桁が多く、近所の方の体験談を思い出した。終戦時にソ連軍と戦い、負傷して捕虜となり、辛うじて生き長らえて帰還され、その後遺骨収集と墓参に努めていると語られていたが、果たしてこの墓地がその一部なのだろうか？かくいう私も関東軍軍属として命からがら帰国した17歳の満州、朝鮮の逃避行体験を持ち、戦争の愚かさは骨身に染み込んでいる。墓標をしげしげと見ると、1996年没、1998年没と比較的最近の死没年月日の墓標が見え、「アツ」とある場面を思い出した。それは井上靖『おろしや国酔夢譚』の一場面で、長いシベリア生活に疲れた漂流民が現地女性の性と懇ろになり、日本語教師としてシベリアに居ついた抑留者の姿だつた。

推測は避けねばならないが、「母国に帰りたい」と願うそれを果たした大国屋光太夫と、日本語学校の教師としてこの地に同化した日本人と、この地に立つてみると、それぞれが一つの人生を全うしたのだ、とも思った。

◆連載も今月号で終わりとなりましたが、途中紙面の関係で余儀なく掲載が出来りました事をお詫びいたします。

【広報部】